



**予想以上にスポーティで
使い勝手のあるインテリア**

インテリアもスポーティかつ個性的だ。特にドライバーズシートは、スタートス イッチを押してから眼前に浮かび上がる 先進的な計器類と、スポーツカー並みの囲 まれ感とのギャップに、思わず「なるほど、 面白い」とつぶやいてしまったほど。試乗 したHYBRID RS Honda

クと台形型の安定感あふれるリアビュー が特徴。しかし全体を眺めると、鋭さと丸 みが絶妙にブレンドされてきちんとまと まっているというもの。国産車はもろん 輸入車まで含めてもかなり個性的である ことがわかる。その存在感はまさしく翡翠 そのものと言えそう。

ラインアップはガソリン車にRS（5人 乗り）／X（6人乗り）／G（5人乗り）の3 グレード、HVにRS（5人乗り）／X（6 人乗り）の2グレード。すべてFFで、正 式なグレード名称は末尾にHonda SENSINGがつく。エンジンはすべて 1,496cc直列4気筒DOHC16バルブ VTECで、ガソリン車にはターボ、HV にはモーターが組み合わされる。トランス ミッションはガソリン車がCVT、HVは 7速ATとなっており、HVには i-DCD（インテリジェント・デュアル・ クラッチ・ドライブ）が搭載され、モーター のみによるEV走行と、エンジン＋モ ーターによる「ハイブリッドドライブモ ード」を、アクセルの踏み方だけでコン トロールできるようになっている。

現代のクルマには、走る・曲がる・止ま るという基本性能に加え、燃費性能や安全 性も重要なファクターとなっている。ホン ダが推進している安全運転支援システム がHonda SENSING。その開発目 標は「事故に遭わない社会の達成」という、 非常に崇高なものだ。そこに盛り込まれて いる8つの機能をご紹介しますと、「ぶつ からないため」の衝突軽減ブレーキ、「飛び出 さないため」の誤発進抑制機能、「歩行者へ の配慮」としての歩行者事故低減ステア リング、「はみ出さないため」の路外逸脱抑制 機能、「適切な車間距離を保つため」のアダ プティブ・クルーズ・コントロール、「ぶ つかないため」の車線維持支援システ

事故に遭わない社会のために

SENSINGのインテリアカラーはプ ラックのみなので、なおさらである。また シフトレバーは小さく、必要最小限のポジ ションのみ。そのかわり、パドルシフトが 標準装備となっていることで、爽快な走り を楽しみたい時にはマニュアル感覚での ドライブが可能だ。

前席の頭上スペースは余裕たっぷり。後 席は前席ほどではないものの、ロングドラ イブにも十分耐えられるだけのゆとりが ある。残念ながら3列目シートは試せてい ないが、日常的な使用はほとんどないだろ うし、それ以上のスペースを望む方には シャトル、フリード、ステップワゴン、オ デッセイと、魅力的な選択肢がたくさんあ る。

ホンダ・ジェイドがマイナーチェンジ を受けて登場した。「ニュースタイルワゴン

個性派 ニュースタイルワゴン —プロフィール—

ひととき異彩を放つホンダ・ジェイド より魅力を増してマイナーチェンジ HONDA JADE

■テキスト＝横山 聡史 (Lucky Wagon) ■Photo＝青柳 健司 (フォトライター)
■取材協力＝ホンダカーズ北海道 北38条店 TEL(011)751-9301

ン」と銘打たれたジェイドは、ミニバンと もステーションワゴンとも異なり、セダン ベースの5ドアハッチでもないという、か なり個性的な車種である。

ジェイドは13年に中国で製造・販売が 開始され、15年には日本での製造・販売も スタート。グローバルカーの要素に加え、 ストリームの後継としての位置付けも加 味しながら新車種として誕生した経緯が ある。中国ではガソリンエンジンと2列 シート（5人乗り）／3列シート（6人乗 り）という組み合わせだったが、日本では 3列シート（6人乗り）のHV専用車とし て登場。3か月ほど遅れてガソリン・ター ボ車が追加された。

今回のマイナーチェンジでは日本発売 からまる3年経過したことを踏まえ、エク ステリアデザインの変更、5人乗りモデル の追加、Honda SENSINGの標準 化によるグレード名称変更（全グレード名 の末尾にHonda SENSINGがつ く）などが行われている。

ガソリンとHV、5人乗りと6 人乗りからラインアップを構成

車名のJADEとは英語で翡翠（ひす い）の意味。翡翠とは青や暗緑色の美しい 羽を持つかわせみ科の鳥の総称であること ともに、それらの羽のような色の宝石のことである。中国や中南米のインカ文明では 古くから金以上に珍重された石であり、日 本では玉（ぎよく）と呼ばれてきた。この名 を冠したジェイドのエクステリアデザイ ンは、挑戦的でスポーティなフロントマス

ディーラーメッセージ

Honda Cars 北海道 北38条店
営業主任

遠藤 功さん

ジェイドの魅力は、まず個性的であるということです。ターゲットは狭いものの、それゆえにジェイドだけの強い個性をしっかりと持っています。そして最新の安全運転支援技術 Honda SENSING の標準搭載、24.2km/L (HV 車・JC08 モード) という高燃費、スタイリッシュな外観と「楽しい」と思える走行性能…。一味違うクルマに乗りたいたいという方、クルマをライフスタイルの表現の一つとして捉えておられる方には、ぜひお試しいただきたいと思います。



「発進をお知らせ」する先行車発進お知らせ機能、「みのがさないため」の標識認識機能となる。このほか、坂道発進をサポートするヒルスタートアシスト機能、前席からリアクォーターガラスまでをカバーするサイドカーテンエアバッグ、走行中に急ブレーキと判断すると、ブレーキランプに加えてハザードランプが高速点滅するエマージェンシーストップシグナルなどの機能も全車標準装備。安全機能は至れり尽くせりという充実ぶりである。

インプレッション

「乗ってみて真価がわかる」
一台

好天の下、郊外の道を走ってみたが、出足のトルクは力強く、非常に心強い。HVやEVに搭載されるモーターは最大トルクを低回転で発生する上、エンジンは非常に活発に回るので、ストップ＆ゴーの多い街中でも乗りやすく、多少飛ばしたい時にもスポーティなドライブレフィールを提供してくれる。

エンジンとロードノイズを含めた静粛性は極めて高い。特にRSグレードではロードノイズを低減する18インチのノイズリデュースングアルミホイールが採用されており、オーディオをオフにして走行してみたところ、その静粛性に驚かされた。発進時/減速時ともに、回生ブレーキや駆動系の動くかすかな音が聞こえるほどだ。

なにより驚いたのは走行性能と乗り味。ミニバンやステーションワゴンとは、車内空

間が大きく車高がある分、コーナーでの挙動はどうしても鈍かったり、ワンテンポ遅れたりする。爽快にワインディングを走ろうと思う時、ステアリングとアクセルにボディが反応し、鼻先がすっとインを向いてくれるのが気持ち良いのだが、そうした力テグリーに求めるのは難しいのが常である。しかしジェイドには、そうしたネガがなく、とてもスポーティな挙動を見せる。もちろん、540mmという、この力テグリーの中ではかなり低く抑えられた全高の影響もあるだろう。加えて衝突安全性も考慮したG-CONと呼ばれる強化されたボディ骨格、ホンダ伝統とも言えるダブルウィッシュボーン・リアサスペンションなど、様々な要素が融合して成り立っていると思われる。

試乗前にHonda Cars 北海道北38条店で伺ったお話では、40代後半以上の男性オーナーさんが多いとのこと。それも「ちょっと違った個性的なクルマ」を好む方々が多いのだそう。確かにジェイドはそうした層にぴったりと当てはまる。冒頭に「ミニバンともステーションワゴンとも異なり、セダンベースの5ドアハッチでもない」と記したが、ややもすると中途半端な存在になってしまふところを、逆に異彩を放つ存在として商品化している。走りが楽しくて、燃費が良く、最新の安全性が満載。正直なところ、これほど完成度の高いクルマと認識していなかった。クルマというものは、やはり乗ってみなければわからない。